



学校が再開しました

**引き続き、感染対策に
万全を期してまいります**

8月25日(水)学校が再開しました。校舎内に子どもたちの声が戻り、学校は活気を取り戻しました。

しかし、福岡県が緊急事態宣言の対象地区となり市教委の指示で8月31日(火)までは、4時間授業で給食後下校することとなりました。新型コロナウイルスの感染状況は、今までに経験したことがない厳しいものであると職員一同認識を新たにし、気を引き締めて教育活動に取り組んでいるところです。今までのように、ウイルスを持ち込ませないために教室に入る前の手指消毒・発熱や健康状態のチェックを行い、校内での感染を防ぐために換気・石けんを使っての手洗いの奨励・授業形態の工夫・不特定多数の者が触れる部分の消毒はもちろん、新たに児童昇降口(靴箱)の密集・密接を避けるために靴箱・昇降口を分散しました。



全国各地では、夏休み中に友達の家へ行き、マスクをはずしてゲームをする中で感染してしまったという例が見られています。今後、緊急事態宣言が解除されたり、短縮授業から通常の授業形態に移ったりした場合、放課後であっても自宅の外に出る場合は、マスクを着用するようご指導をお願い致します。



また、短縮授業(8月25~31日)は、感染予防のためにやっていること、そのため放課後に出歩いたり、友達の家遊びに行ったりすることはできるだけ避けるよう指導しています。コロナ禍の中ではありますが、『子どもたちの学びを止めないよう』努力してまいりたいと思います。保護者の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

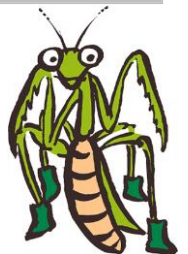
《何度もお願いしていることですが、今一度重ねてお願い致します》

以下の場合、児童の登校を控えていただきますようお願いいたします。

- ①家族に発熱や体調不良などの症状が見られた場合(児童本人の場合も同様です)
- ②家族がPCR検査を受けることになった場合は、その検査結果が出るまで(児童本人の場合も同様です)



子どもとネットの世界を考える PART 2



前回の学校便りでは「子どもとネット(ゲーム)」について課題だと感じていることを書きましたが、その続編です。

SNSに起因する犯罪被害が、全国的に後を絶たない状況にあり、福岡県警によると令和2年中の被害児童数は本県でも81人にのぼるそうです。令和元年には、大阪の女子児童がSNSで知り合った男性に誘拐されるという事件が起こっています。この女子児童は、あるオンラインゲームにはまっていました。このゲームは5人でチームを組んで敵と戦うことが多いのですが、ゲームが上手な人は「神」とあがめられます。自分たちのチームが勝てるように作戦を立ててくれるし、文字通り「命の恩人」なので強い絆で結ばれます。しかも、利用者同士がリアルタイムで会話できる機能をゲームが備えており、不特定多数の人とつながりをもつことが可能なことから、出会い系サイトと同様の危険性があると言われていました。

ゲームの内容も気になるものがあります。シューティングゲームやバトルロイヤルと言われるジャンルです。武器を用いて敵を倒していくのですが、非常に過激なストーリーとなっているものもあります。日本では推奨年齢が15歳以上となっていますが、保護者のアカウントであれば使用可能ですし、子どものアカウントであっても保護者が許可し、年齢制限を解除することで使用可能になってしまいます。



インターネットを介したSNSでは世界中の「ひと・もの・こと」とつながることが出来るといわれています。自宅にいながら世界中と繋がることのできるなんて私の子どもの頃には想像さえつかないすばらしいことですが、危険も多く潜んでいます。子どもがスマホやタブレットを使用している場合はフィルタリングをかけたり、どのような「ひと・もの・こと」とつながっているのか確認したりすることが必要ではないかと思ひます。